



## Having Gay Dads

### ゲイの両親を持つということ

#### Interviewee

Eli Kessler

#### Q.自己紹介をお願いします。

19 歳になったばかり。家族は現在ワシントン州に住んでいる。前はハワイとカリフォルニアに住んでいたこともある。父の仕事の関係で引っ越してきた。現在、オレゴン州のポートランドで大学に通っている。心理学を専攻している。今は春休みでワシントンの実家に戻ってきている。

#### Q. 家族構成について教えてください。きょうだいほどのように誕生しましたか？ きょうだいとの関係はどうですか？

両親はジョナサンとデイビット。遺伝的父はジョナサンだが、遺伝的な繋がり云々はあまり考えない。自分にとっては、それは大きな問題ではない。それは自分の家族から学んだこと。もっと重要なのは人とのつながりで、これが家族を作るものだと思う。たとえば、ハワイの文化では、血の繋がりがあの人だけでなく、親しい人のすべてを家族と見なしている。

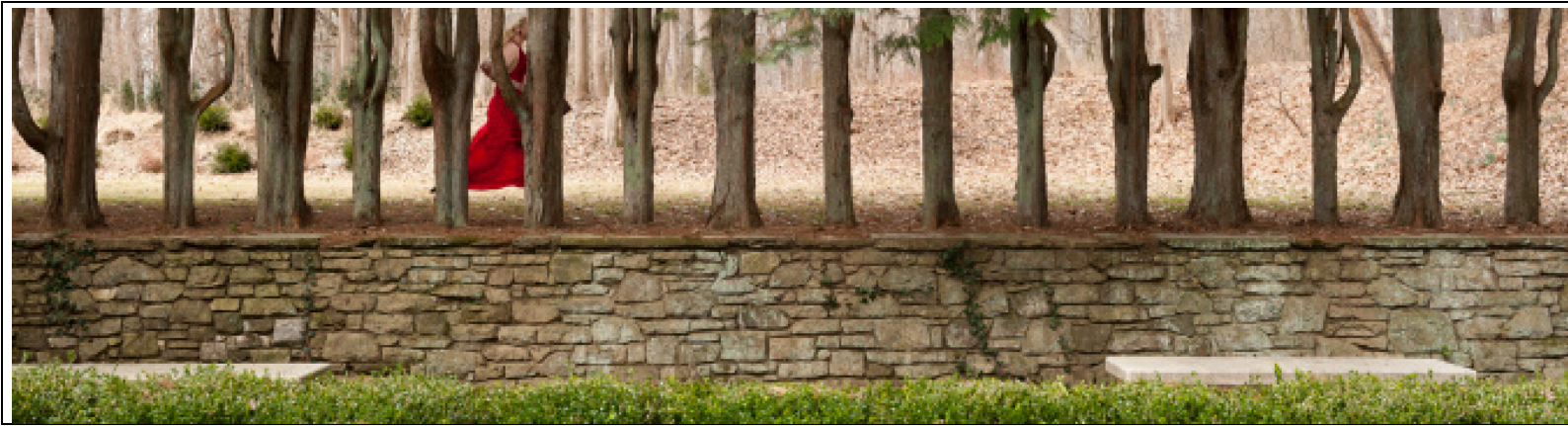
両親は、自分が生まれる約 10 年前に出会った。デイビットはその前に女性と結婚していたが、妻がレズビアンであることに気付いた後、離婚した。彼らには 3 人の子供がいた。その関係から自分には 3 人の年上のきょうだいがいる（彼らはすべて 40 代になっている）。

両親が一緒になった後、卵子提供と代理出産で子供をつくることを決めた。ジョナサンはデビッドより 11 歳年下で、自分の子供が欲しかったので、ジョナサンの精子を使った。ジョナサンはデビッドの子供たちと良い関係を持っている。両親が一緒になった時、前妻との子供たちはすでに高校生になっていた。

双子の妹とはとても仲がいい。彼女は現在ミネソタ州の大学に通っていて、かなり遠く離れたところに住んでいる。妹と離れたのはこれが初めてで、つらい。年上のきょうだいたちとは遺伝的には関係がないが、彼らとも親しい関係。しかし、彼らは 20 歳くらいも年上なので、世代間のギャップがある。彼らはかなり遠くに住んでいる。2 人はカリフォルニア州オークランドに住んでいて、もう 1 人はコロラド州に住んでいる。皆、自分の子供を持っている。これほど年上のきょうだいを持つことは非常にユニークだと思う。自分の友人で同じような人はいない。

#### Q.父親と遺伝的関係がある・ないということについて、家庭内ではオープンに話されていますか？

遺伝的関係があるかないかで、両親との関係やコミュニケーションの仕方が変わることはない。成長して思春期を迎える頃、自分はジョナサン（遺伝的父親）に非常に似ているということに徐々に気づき始めたが、それだからといって両親に対する見方は変わらない。彼らは同じように自分の両親だと思う。このことについて父とは何度か話しをした。それは彼らの感情を苛立たせるものではなく、単に事実というだけのこと。それはたいしたことじゃない。



**Q.父親のことをそれぞれ、どのように呼んでいますか？ 父親二人は、育児や家事をどのように分担していますか？**

子供の頃から、ジョナサンを‘Papa’、デイビッドを‘Daddy’と呼んでいる。家族がハワイとカリフォルニアに住んでいたとき、両親は二人とも働いていた。現在、デイビット自宅で仕事をしていて、ジョナサンは家にいて求職中。だいたい、ジョナサンが家事や家の中の飾り付けなどをやることが多いが、料理は半々くらいで分担している。

子供の頃、自分と妹は家ではジョナサンがより「母親」のような人物だと思っていた。彼はデイビットより少し女性的だ。それは家の中での、ちょっとした冗談だった。

**Q.両親から出自をいつ・どのように知らされましたか？ どのように感じましたか？**

代理母がいることを最初から知っていたという感じ。子供の頃、それが何を意味するのか本当にはわからなかったけど、自分と妹は、生まれる前に自分たちは‘オープン’（代理母）の中にいた、とよく言っていた。代理母とは、ある程度親しい関係を持っているけれど、匿名を希望した卵子ドナーについてはほとんど知らない。

数年前、両親に卵子ドナーについて初めて尋ねた。両親は、ジョナサンが遺伝的父だが、当時の法的上、両親の養子になった形だと教えてくれた。父たちはいつもオープンで、自分たちの出生についての情報を、聞けばいつでも教えてくれる。

両親は子供に出生の物語を伝えるための定型化された方法を持っていなかった。だから両親は、それについて事実そ

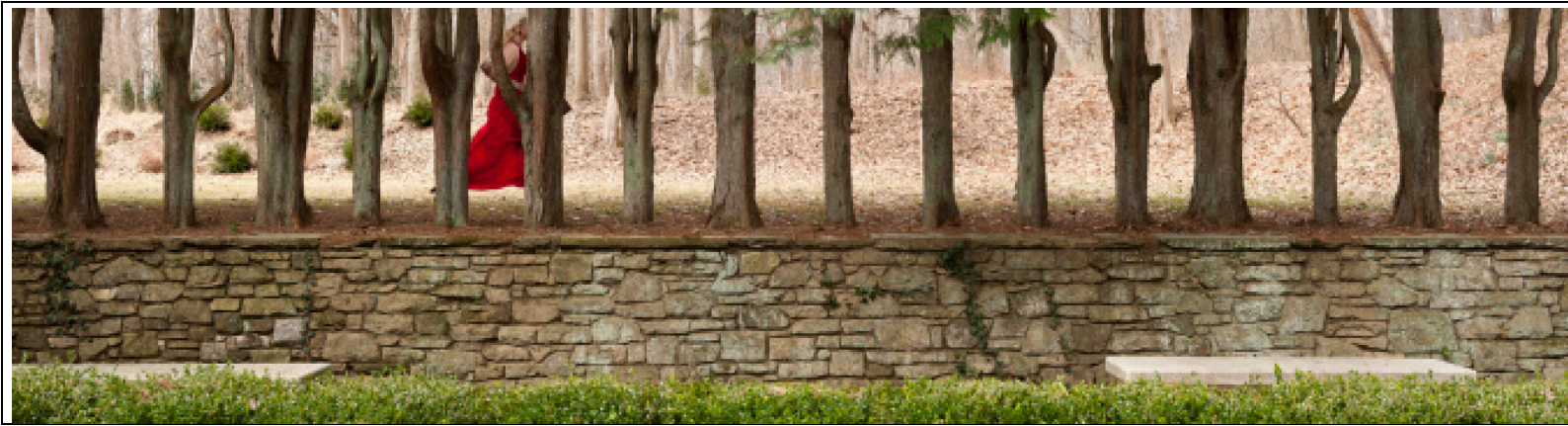
のままに話した。例えば、こんな調子で。「…私たちには卵子を提供した卵子ドナーがいた。ドナーから採取された卵子は研究室に運ばれ、卵子をジョナサンの精子と受精させて代理母に入れた、そして妊娠が起こった…。リアルな意味でそれは「物語」ではなかった。

ほかの子どもたちには、父親と母親が一人ずついるが、自分には父親が二人いて、母親がいないということを最初から知っていた。自分がほかの子と違うことを知っていたが、実際にそれを分析したり、自分の経験を他の人と比較したりはしなかった。子供時代にはそのことから影響を受けなかった。母の日には少し厄介なこともあったけれど。その時は、母の代わりに近くに住んでいた叔母さんのためにカードを作ったりした。

**Q.子どものとき、「ママはどこ？」と聞きましたか？ 「母親」がいないことに、すぐに納得できましたか？**

自分には母親がいないということが他の子供たちの間で話題に持ち上がったことがよくあった。「ママがいないのに、どうやって生まれたの?!」「生まれるためには、ママがいなくてはいけない!」などと言われた。当時、自分が生まれるのに母親が必要なかったことを説明する方法が本当にわからなかった。それでときどき、「ママは死んだ」と答えた。注意を引くためにそれを言って、それが何を意味するのか本当にはわかっていなかった。

一人の子供から、「両親がゲイだから、あなたもゲイになるの?」、「両親のせいであなたもゲイなの?」とよく聞かれたことを覚えている。これが本当だとは思わない。自分自身がゲイであるのは、全くの偶然。



自分の妹も、同じ経験をしたのではないかと思うけれど、それについて妹と実際に話したことはない。

**Q. あなたにとって、「母親」というのはどのような人のことを指しますか？ 代理母や卵子ドナーはどのような存在ですか？**

自分の見方では、母親と生物学的に関係している必要はない。子供の時、卵子ドナーや代理母のことを母親だと言っていたこともあったが、その後、遺伝的つながりは中心的なことではないと気づいた。そうではなく、母親というのは、子どもに愛情を注いで世話をする親のうち、女性の人物のことだと思うようになった。

卵子ドナーは、母親とは言えない存在。彼女の名前を知らないし、彼女について非常に限られた情報しか持っていないから。代理母のことは「私の代理母 (my surrogate)」とか、彼女の名前で呼んでいる。彼女はテキサスに住んでいて、子供の頃に直接見たのが最後。あまり話をしないけれど、お互いにポジティブな気持ちを持っている、遠い家族のような関係。自分と妹がここに存在するのは代理母のお陰なので、彼女に対して親しい気持ちと感謝を感じている。

**Q. 卵子ドナーに将来、会いたいですか？ どのような気持ちを抱いていますか？**

卵子ドナーについてほとんど知らない。父親が彼女をドナーとして選んだとき、父親に渡されたファイルのコピーを持っている。30 ページの紙に、ドナーのプロフィールとして、彼女の出産歴、身体的特徴、学歴、性格、家族歴、病歴、彼女の子供に関する詳細が書かれている（当時、彼女には自分の子供が1人いたので、

少なくとも1人の半きょうだいがいることがわかる）。ドナーのプロフィールは、彼女の自己申告による情報。彼女は匿名を選んだので、彼女が自分の卵子が使われたことを知っているかどうか、確信がない。

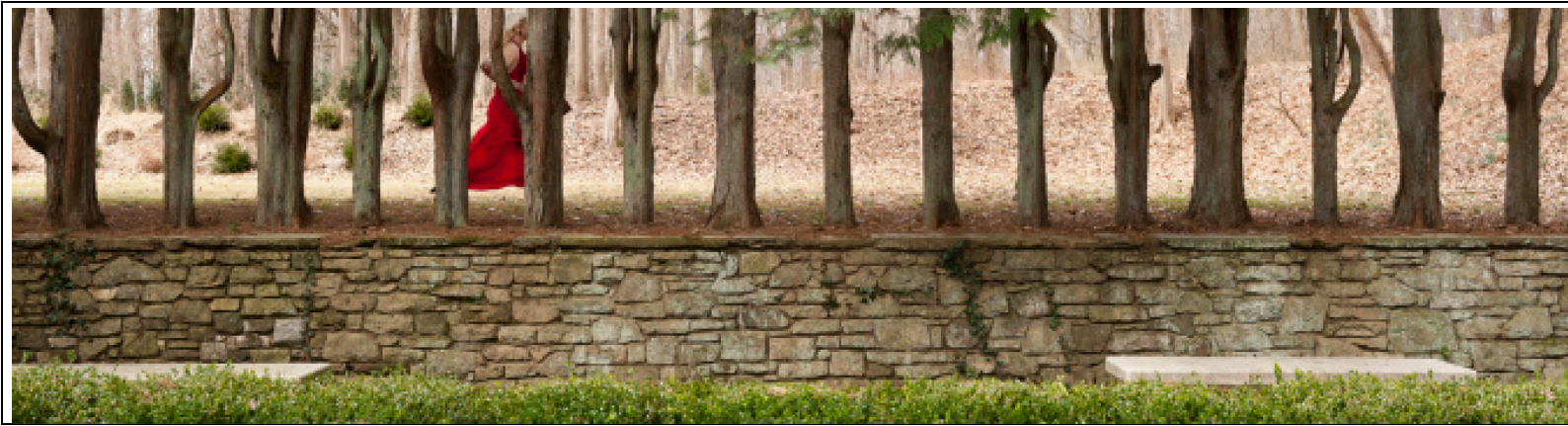
近い将来、自分と妹は、23 & Me や Ancestry.com を使って DNA 検査を行い、ドナーきょうだいを探したい。可能であれば、ドナーやドナーきょうだいと関係を持ちたいと考えている。ドナーが提供した場所のポートランドには、半きょうだいがいる可能性があると思っている。

両親が使用した会社はもう運営されていないので、卵子ドナーの記録は削除されている。以前、父がドナーの住所と電話番号を聞いたが、父が彼女に連絡したとき、つながらなかったの、彼女はおそらく家を引っ越したのだらうと思う。

ドナーの写真を見たいと思っている。ドナーについてプロフィールにもう少し情報があったらいいのと思う。彼女が誰であるか、彼女が何をするのが好きか、彼女の見た目、彼女の性格を知りたい。性格上の特徴が遺伝子を通して伝わるのかどうかを知りたい。これまで、ドナーとコンタクトを取ったことがないので、互いの接触がなくとも、性格上の特徴を共有しているかどうか、これを知ることができれば興味深いと思う。

**Q. 将来、家族を作りたいという希望はありますか？ 子育ては、男性パートナーと一緒にやりたいですか？**

将来、子供を作りたい。いつもそう思っている。自分はゲイだから、それをどうやってやるのが一番いいかを考えなければならない。自然に妊娠できる人と関係することを想定していないから。生殖補助医療を利用するコストやハードルなど



の要素を検討する必要がある。たぶん IVF を選ぶだろうと考えている。可能であれば、将来の子供たちと遺伝的に関係を持ちたいと思う。自分と妹はジョナサンの家系の最後にあたるので、家族の遺伝的系統を継続したいと考えている。

子育ては、パートナーと一緒にしたい。ひとり親になるのは難しいと思う。子育ては大変だから。

**Q.学校や住んでいる地域に、Gay Dads の家族はいますか？ 偏見や差別に遭遇したことはありますか？ そのことは、両親に話しましたか？**

ハワイに住んでいるとき、自分たち以外に、Gay Dads の家族はいなかった。しかし、カリフォルニアでは、中学校に Two Dads がいる子供がほかにいて、その子が、ゲイの父親で娘がいる別の家族を知っていた。自分の父デイビッドの元妻も、レズビアンパートナーと一緒に女の子を養子にして育てている。

自分の家族やセクシュアリティに関する動画をソーシャルメディアにたくさん投稿していて、特に TikTok ではオンライン上で差別に遭った。時々、これらのネガティブなコメントを両親と共有した（例えば、オンラインで初めてオカマ ‘faggot’ と呼ばれたとき）、しかしほとんどの場合、それを単に無視する。フィードバックのほとんどは前向きなもので、元気がでる。

**Q. Men Having Babies などのサポートグループに参加していますか？ Gay Dads をもつ他の子どもたちと交流したことがありますか？**

Men Have Babies のことはよく知らない。

DC に特化したサポートグループにも参加していない。ハワイに住んでいるとき（それは同性婚が合法化される前）、両親は、「両親が結婚できるようにして」と書いたポスターを自分と妹に持たせて、写真を撮った。そのほか、両親はプライドパレードなどに行っていた。

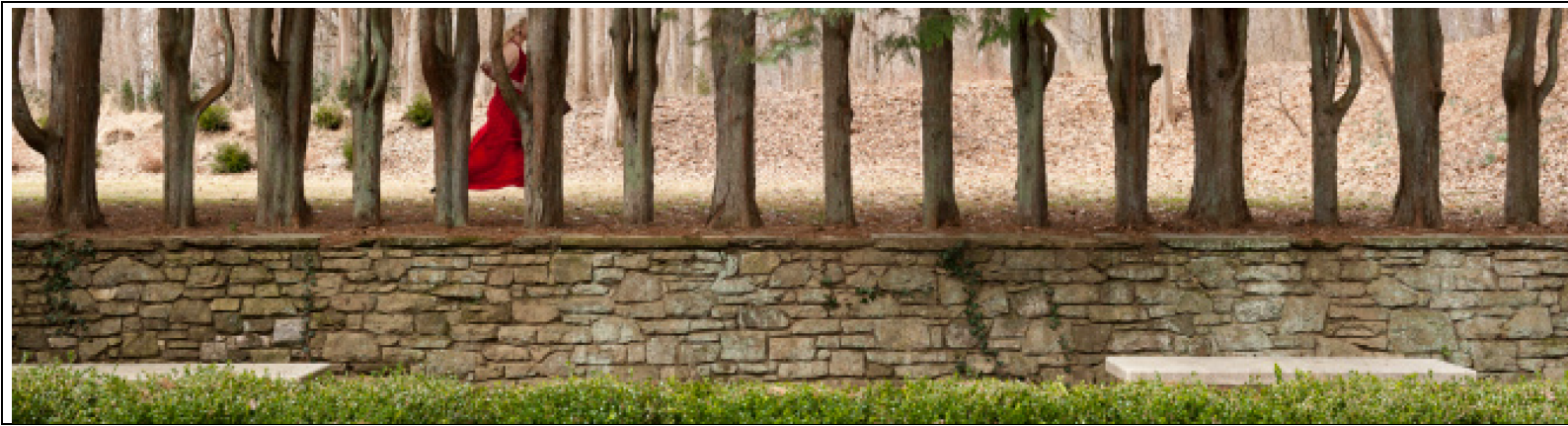
今まで、ゲイの両親をもつ子供を探したことはない。似たような経歴を持つ人々がソーシャルメディアにコメントしてくることがある（自分もゲイの両親がいる等々）。それ以外にはない。

**Q.ドナーから生まれた人や LGBT の両親をもつ人に聞くと、自分の出自や家族構成について、ネガティブにとらえる人、ポジティブにとらえる人、いろいろいるようです。今まで悩んだことがありますか？ そのことは両親に話しましたか？ 逆に、ポジティブと感じている点がありますか？**

自分の出自のことや、両親がゲイであることに関して、特に悩んでいない。両親はとても愛し合っていて、さらに一歩進んで、子供を作る決心をした。両親の愛情と子供を持つことへの熱意はポジティブなものだったと思う。

**Q. 今、一番関心があることは何ですか？ 代理出産で生まれたことや、Gay Dads を持つことや、自分のセクシュアリティについて、それらは自分の人生やアイデンティティにとって、どんな位置づけですか？**

現在、カレッジに通っていて、心理学の勉強に取り組んでいる。心理学を専攻している。将来何をするかを決めたい。医療関係か、研究の分野かのどちらかがいい。人を助けるために問題を解決したり、研究をしたいと思っている。



ドナーから生まれたという事実は、自分にとっては何でもないこと。それは自分の人生のごく一部で、誰でも他の人とは異なる自分だけの特徴をもっているのと同じこと。それが自分の場合、やや珍しいものであることを認めているけれど、それだけのこと。

自分のセクシュアリティについても同じように感じている。TikTokで「両親がゲイだから、その影響でゲイになったの?」とよく聞かれる。それに対しては断固としてノーと言う。自分は他の子供たちと同じように育ったし、子供のときにクィアネスに接したとしても、それは自分自身のセクシュアリティの発達には影響を与えなかった。興味深いことに、自分には2人のゲイの父親がいて、自分のセクシュアリティを支持してくれることをわかってはいたが、それでも両親にカムアウトするのは怖かった。

自分のセクシュアリティを両親に打ち明ければ、自分に対する両親の見方が変わり、扱いが変わるのを恐れていた。それは傷つきやすい瞬間だった。

両親に伝えたとき、両親はすでに知っていたと言った。息子が打ち明ける心の準備ができるのを待っていたと言った。

**Q.一部の国で子宮移植が臨床応用されつつあります。子宮移植で子どもを産むことは選択肢になりますか?**

そういう可能性を今まで考えたことがなかった。子宮を持つインターセックスの人々なら可能だろうと思っていた。自分のことをトランスジェンダー（非バイナリー）と思っているので、子供を産むなら、それが性別の感覚にどう影響するかわからない。それによって自分がどう感じるか確証がない。

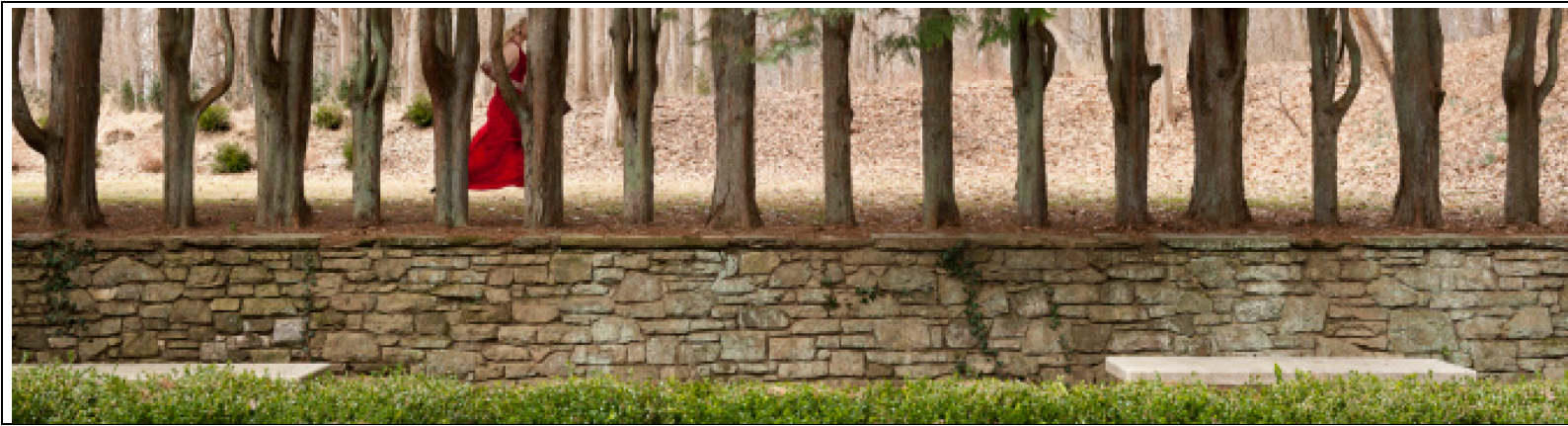
子宮移植にとっても興味がある。子宮移植の理論が発展して現実的になるのを見たいと思うけれど、それが実際、どのように機能するか、疑問がたくさんある。特に男性の体が、胎児の成長をサポートするように設計されていないことを考えると、その背後にあるサイエンスについてももっと知りたいと思う。

#### **Q.その他、コメント**

これまで正式にインタビューを受けたことはないけれど、自分のストーリーはThisisLifeというSnapchatチャンネルで取り上げられている。セグメントのタイトルは「ゲイであるということ、ゲイの両親を持つということ」で、2021年に投稿された。

自分と妹はとても似ているが、彼女はレズビアンではないし、趣味も彼と異なっている。自分も妹も、医療分野に関心を持っていて、妹は看護学校に通っている。

(2022年3月)



**Eli Kessler**

ゲイの父親を持ち、卵子提供と代理出産で生まれた。現在、19歳で、双子の妹がいる。オレゴン州のカレッジで心理学を学んでいる。両親が住む実家はワシントンにある。

Instagram: [mightbealizard](#)

YouTube: [notmoldymilk](#)

TikTok: [iitselii](#)

Snapchat feature: [My dads are gay and so am I](#)